DBKだより

第29号
2024年10月1日
ドン・ボスコ基金

ボリビア／カリタス学園とオガール・ファティマ乳児院より

わたしは、あなたの行い、愛、信仰、奉仕、忍耐を知っている。
（ヨハネの黙示録2章19節）

トピック
モンゴル：夢と希望をもって!青少年センターのさらなる発展のために／**ウクライナ：**戦争から逃れてきた子どもたちのためのサマーキャンプ／**シリア：**子どもたちを「平和のオアシス」へ。ドン・ボスコワールドサレジオキャンプ／**ボリビア：**祝・宣教60周年!カリタス学園とオガール・ファティマ乳児院より／**ベトナム：**北ベトナム管区より2024～2025年度奨学金支援のお願い／**ブラジル：**サン・マテウス校より奨学生援助のお願い／**日本：**FMA国際ボランティアVIDES「浪江町プロジェクト」開始にあたって／**日本：**多文化共生センター東京、継続支援への感謝

恩人の皆さまへ

皆さまの常日頃のご支援、お祈りに心から感謝申し上げます。

2024年3月にベトナムを訪れる機会がありました。数名のサレジオ会員とともにDBKが支援している北ベトナム管区の委任地区ヴァン・フックを訪ね、現地のサレジオ会員たちにお会いしてきました。実際に訪れると、事前の情報だけでは知り得なかったことが数多くあるものです。今回の訪問では、ベトナムは北と南とでは全く違うという現実を目の当たりにしました。別の国みたいだと言う会員もいました。簡単に言えば、「北」は「南」よりもかなり厳しい政治的制約の下に置かれているということです。そのような状況で「北」のサレジオ会員たちは知恵をしぼり、できる範囲内で精いっぱいドン・ボスコの精神を生きていました。教会などの建物は決して立派であるとは言えませんが、青少年が使うグラウンドや楽器などにはそれなりの費用をかけています。特に、地域の貧しい子どもたちのために全会員が協力し合って関わり、支援している姿勢には目を見張るものがありました。その結果、地域の治安が安定し、自治体や警察などからも信頼され、さまざまな管理を任されるまでになっているようです。

限られた制約の中でドン・ボスコの精神を生き、ドン・ボスコのやり方で青少年を集め、できる限りのことを一生懸命にする姿。神のため、青少年のためには、いかなる状況にあっても工夫し尽力しようとする姿勢に、何かと不平不満を漏らしがちな自身の生活を反省させられました。自分中心に考えようとすると、ささいな不満がつぎつぎと現れます。しかし人のために心を開いたとき、自分が抱いている不平不満など他愛もなく、取るに足らないことだったと気付くのです。と同時に、ほんの少し自分が我慢すれば、それが誰かを支え、活動の支援につながっていくのだということを、深く心に刻んだ訪問となりました。

6月より管区長に就任しました濵崎です。今後ともよろしくお願いいたします。

2024年10月
DBK［ドン・ボスコ基金］代表　濵崎 敦
（サレジオ会日本管区長）

モンゴル
夢と希望をもって！ 青少年センターのさらなる発展のために

サレジアン・シスターズ
シスター 小島華子

皆さま、いつもモンゴル宣教のことを心にかけ、霊的・物的な援助をくださり感謝申し上げます。

私がゾーンモドに来て3年がたち、この地域の状況、人びとの生き方、諸問題などを理解できるようになりました。この地域にとって、特に青少年や子どもたちにとって有益な事業にするために、たくさんの夢や希望をもっています。しかし、外国からの援助のみで経営しているため、資金不足でなかなか思いどおりに実現することができません。写真とともに、私たちの現状と夢を紹介します。

①壁と天井の劣化

築20年近い建物のため、いたるところで壁紙が剥がれ、壁そのものもボロボロになっています。修理するのにある程度の資金が必要になります。

さらに今年、モンゴルで大量の雪が降った際、雪解け水がうまく屋根から落ちず、特に2階の天井一面に広がってしまい、あちらこちらで雨漏りが発生しました。天井の塗装が剥がれたり、粉になって落ちてきたりして、4月の終わりまで苦労しました。全体的に修理する必要が出てきました。

②体育館の土台の劣化

建設の際に安値でお願いしたそうで、まだ3年しかたっていないのに、全体的にセメントが剥がれて中のレンガが見えています。

③水道管の破裂・水漏れ

《これが私たちの最大の悩みです。》私がゾーンモドに来た3年前から、毎年、水道管が破裂したりつなぎ目から水が漏れたりして、その都度、廊下のタイルを割って剥がし、修理をしています。

廊下の下に管があるため、どこから水が漏れているのかわかりません。当てずっぽうで割って剥がしてしまうと、もし違っていたときに余計な出費になってしまいます。もう築20年近くたつので、この建物にあるすべての管（水道管3本と暖房管2本の合計5本）を変える時期が来たと言われました。どれほど大きな工事になるのか想像できませんが、きっと私の想像を超えるものになると思います。

ゾーンモドはトブ県の県庁所在地ではありますが、田舎のため工事業者がおらず、ウランバートルから呼ばなければなりません。そのための出費がかさむうえに、工事が終わるまで作業員が寝泊まりする場所、食事も私たちが準備しなければなりません。

モンゴルは9か月間寒く、夏休みの3か月間しか工事をすることができないので、できれば来年の夏に取り掛かりたいと希望しています。水道管の破裂は特に冬、セントラルヒーティング（1か所で発生させた熱湯を各部屋へ送り建物全体を温める暖房システム）が稼働する時期に起こります。今年はどこから、何回破裂するのか……と、10月から私の大きなストレスになります。

④ビニールハウスの設置

センターの庭にビニールハウスを設置して、子どもたちとともに野菜や花を植え、命の大切さ、収穫の喜びを分かち合いたいという夢をもっています。暖かい時期は3か月間しかありませんが、挑戦したいと思っています。

⑤玄関のリフォーム

センターの玄関ドアはご覧のとおり家庭用のドアなので、センターらしい入り口に変えたいと願っています。モンゴルの冬はとても寒いので、ドアを手前に一つ、奥に一つ作って、二重扉にする必要があります。

以上が大がかりな修理を必要とするもので、私たちの夢を実現するため困難となっている一部です。これまでもたくさんの援助をいただいてどれほど助かったことでしょう。神さまが望まれたこのセンターをたくさんの人が利用しやすい場所にするために、そしてモンゴルの子どもたちのよりよい成長のために、より具体的な必要性を知った今、更によい環境作りに皆様がご

協力くださることを切に願っています。
　現在、青少年センターは学童保育として小学生のためだけに開かれていますが、今年の9月、新年度から青少年のためにも開きたいと思っています。そして近い将来この地域でDVを受けている女性や子どもたちのためのカウンセリングルームも開きたいと思っています。
　モンゴルでは教会の敷地外で“神さま”という言葉を遣うことができません。しかし人びとの必要に応え、人びとを温かく迎えることで、神さまのすべての人への配慮、心遣い、愛を感じてもらえるように日々努力し、邁進していきたいと思います。そのために、引き続きの霊的・物的援助を心よりお願いいたします。
　神さまの祝福がいつも皆さまとともにありますように。

ウクライナ
戦争から逃れてきた子どもたちのためのサマーキャンプ

ANS　サレジオ通信局
2024年7月5日付

　ウクライナ・リヴィウにあるサレジアン・ファミリーホームは、「ポクロフの聖母マリア」の名が付けられた教区の教会に隣接する鐘楼の周辺に位置しているため、「ポクロヴァ」（ウクライナ語で「避難所、保護」を意味する）と名付けられています。ここは児童養護施設で、2006年にサレジオ会によって設立されました。主な目的は、弱い立場にある子どもや若者に個別にアプローチし、一人ひとりに好ましい環境、包括的かつ総合的な発達をもたらす環境を提供することです。
　この施設は、親のいない子どもや親の保護を受けられない子ども、機能不全家庭や低所得家庭の子どもを受け入れており、残念ながら今日では戦争で孤児となり、オデッサ、ハリコフ、ザポリージャなど紛争の影響が最も大きい地域から逃れてきた子どもも受け入れています。
　ファミリーホームで暮らす子どもや若者は同年代の子どもたちと一緒に学校に通い、大人はサレジオ会センターの職業訓練コースに参加します。また、英語、歌、サレジオ会サッカースクールでのサッカーコースなど、幅広い課外活動にも参加します。
　夏の間、通常の学校活動は中止されますが、もちろん、同年代の多くの子どもたちと同じように余暇や休暇を取る機会がない子どもたちも、楽しい時間を過ごすことができます。
　リヴィウのサレジオ会の目標は、子どもたちが戦争による日常生活のストレスから遠く離れ、穏やかで楽しい時間の思い出と写真とを携えて、来年度もまた学校に戻れるようにすることです。
　トリノのサレジオ会宣教事務所、ミッショニ・ドン・ボスコは次のように言っています。
「ウクライナの会員たちは、ウクライナの子どもや若者が実家を離れて休暇と平穏な時間を過ごせるよう支援を求めています。彼らを戦争の状況下から遠ざけるためです。そうすることで、彼らは少しの間、サイレンやシェルターの悪夢、戦争の苦しみ、爆撃の恐怖を忘れられるでしょう」。
　サレジオ会では戦争以前から、家庭内で弱い立場にある子どもたちが日常生活から離れ心身ともに回復できるよう、海辺でのサマーキャンプを企画していました。経済的にも自立していましたが、今日、恐ろしい戦争によってすべてが変わり、食事、宿泊、教材、ゲームなど、キャンプに関わる多くの費用を賄うことができなくなりました。
　2024年の夏は、8月15日～25日に、クロアチアのプーラでサマーキャンプを計画しています。ギリシャ典礼カトリック教会の扶助者聖マリア準管区長であるミハイロ・チャバン神父とともに、10人の指導者、6～19歳までの65人の子どもたち（戦争の影響を最も受けた地域から15人を含む）を連れていくために支援を必要としています。

シリア
子どもたちを「平和のオアシス」へ ドン・ボスコワールド サレジオキャンプ

ANS　サレジオ通信局
2024年7月10日付

アレッポ、ダマスカス、カフルーンのサレジオ会が約1か月半にわたって約3,000人の若者を対象に主催するサマーキャンプ。テーマは、「ドン・ボスコの空間」から「ドン・ボスコの世界」へと変わりました。

今年で13年目となる戦争状態に加えて、昨年の壊滅的な地震の影響もあり、国が経済的かつ社会的困難に陥っている中、サレジオ会は何百人もの若い青少年センターのリーダーを積極的に巻き込みながら、教育、レクリエーション、共同生活、宗教的ダイナミクスをとおして、喜びと希望が支配する「平和のオアシス」へと自分たちの環境を変え続けています。

シリアのサレジオ会中東管区（MOR）が開催する今年のサマーキャンプには、9～17歳までの約3,000人の子どもたちと約400人の若者たちが参加しています。アレッポ、ダマスカス、カフルーンにある施設では参加者を1か月半にわたって受け入れ、年齢別に分かれて、レジャー、レクリエーション、スポーツ、遠足、演劇、要理教育、ドン・ボスコの働きに関する知識など、充実したプログラムを行い、楽しさと喜びに満ちたすばらしい雰囲気が生まれます。

参加者の誰も、この国が長年戦争で苦しんでいるという危機的状況、そして昨年の地震の影響でそれがさらに悪化している今の状況を忘れることはできません。しかし、このキャンプでは、子どもたちや若者たちが「楽しみ、学び、さらにはトラウマを克服する機会を得ています。それは彼ら全員にとって大きな希望の源です」と、アレッポでの活動責任者である若者の一人、ラニアさんは言っています。

青少年センターで活動する何十人もの若い大学生と、サレジオ会の司牧活動に携わりキャンプのリーダーでもある多くの親たちが、今年のキャンプの会場と活動の準備とに何か月も費やしてきました。今年のキャンプのテーマは「ドン・ボスコの世界」です。昨年のテーマは「ドン・ボスコの空間」で、9歳の夢までのドン・ボスコの生涯をたどるものでした。今年のテーマも継続してサレジオ会創設者の生涯をたどり、ドン・ボスコが神学校に入学してから司祭に叙階されるまでの期間に焦点を当てます。

気温が高いため、一緒に過ごす日々は、午後3時に始まり、夜の9時まで続きます。レクリエーション活動（プールでのひとときや山への遠足など）は毎週行われ、合わせてサレジオ会の基本的活動（演劇、歌、霊性など）が家庭、中庭、学校、小教区にて行われています。

「これらのサマーキャンプは、子どもたちの心に直接届く希望であり、それが子どもたちの顔に表れています。なぜなら、家庭の状況は維持不可能なもので、非常に低い給料と、インフレにより必要なものを買えない状況に見舞われているからです」と、ダマスカスでの活動責任者の一人であるジョセフさんは説明します。

キャンプの最大の出費は輸送費です。アレッポではバス5台、ダマスカスではバス3台、カフルーンではミニバス8台が、毎日、市街地から最も遠い地域へ参加者のほとんどを迎えに行きます。「そうしなければ、参加者は来ないでしょう。距離が長すぎるし、費用も高すぎるからです。だからこそ、参加者が何も不足することなく、この夏ドン・ボスコの平和のオアシスを楽しめるように、私たちは全力を尽くしているのです」と、サレジオ会ボランティアのマテオさんは結論付けています。

ボリビア
祝・宣教60周年! カリタス学園とオガール・ファティマ乳児院より

オガール・ファティマ乳児院

イエスのカリタス修道女会
シスター ユリアナ川下

“¡Hola! ¡Ay, hace mucho frío! ¡abrígate bien!” (こんにちは!うわー、とても寒い!温かくしてね!)

このところ、このような挨拶が交わされています。

ボリビア国、常夏のサンタ・クルス（Santa Cruz＝聖なる十字架）市は、5～7月にかけて冷たい南風（Surazo）が吹いて、気温が10℃まで下がる寒い日もあれば、30℃を超えて汗ばむ日もあり、過ごしやすいとは言えない日々が続いています。イエスのカリタス修道女会のシスターたちは、ボリビアの人々と共に、にぎやかに、喜びと感謝のうちに過ごしています。

近年の夏の暑さは世界的に異常ですね。日本は熱中症に要注意の時期でしょう。ボリビアでは、Covid-19の脅威は皆無となりました。暑くなるとデング熱、チクングニア熱、寒くなるとインフルエンザの大流行が心配ですが、今年は大きな流行と被害はないようで幸いです。ただ、政治経済は不安定で、ボリビアでは今、外貨ドルが枯渇しているため、製品を作ることができません。ボリビアは多くの製品を海外からの輸入に依存しているため、物価が上がり、市民の生活、特に食卓に影を落としています。さらに、異常気象のあおりなのか、農産物の価格の上がり下がりも甚だしいです。ここしばらくはトマトの価格が5倍に上がって、修道院の食卓から消えていましたが、最近やっと下がって、食卓に色を添えるようになりました。

ところでこの2024年、イエスのカリタス修道女会はボリビア宣教60周年に当たります。サレジオ会のストレンナ「ドン・ボスコの夢、わたしたちの夢」を再発見しながら、神さまの不思議な導きにより、私たちの創立者アントニオ・カヴォリ神父の夢が、カリタス会の南米への宣教女派遣として実現したことを思い起こしています。

1968 年　初期の宣教女たち

1966 年の第 2 コロニア修道院

現在の第 2 コロニア修道院

オキナワ移住地での宣教

サレジオ家族の静修に参加

高校生クラス別半日練成会

高校 6 年生 1 日練成会

ヴェロニカさん一家に家庭訪問

サレジオ会の幼稚園へ通う子どもたち

南米への第1回宣教女派遣式で、カヴォリ神父が「おお!　サンタ・クルス!　サンタ・クルス!　サンタ・クルス!　聖なる十字架の下にカリタス修道女会の南米宣教が始まります」と残した言葉からも感動が伝わってきます。

1964年、第1回派遣後、メリノール宣教会とともにオキナワ移住地（沖縄出身者が開拓した日本人移民が暮らす地）の宣教に従事。その後1991年、当時のサレジオ会管区長カルロス・ロンゴ神父の協力で、教育事業「カリタス学園」が立ち上がり、その準備中であった1990年に、当時のサンタ・クルス大司教区補佐司教ティト・ソラリ神父（サレジオ会員）を介して、「オガール・ファティマ乳児院」の事業を委託されることになりました。

ボリビア宣教の歴史の中で、親しみやすく寛大なサレジオ会の神父様、ブラザー方は、愛情をもってカリタス会の宣教に協力、支援してくださり感謝しています。そして、ボリビアのサレジオ家族は、サレジオ会を中心にさまざまな活動や3か月ごとの静修をとおして親交を深めています。

カリタス学園では毎年、サレジオ家族のストレンナを基調に、3人の司牧チームの職員とシスターたちが、高校生にクラスごとの半日練成会を準備します。今年は、①ドン・ボスコの夢と私の夢　②マリアさまは私たちの教師　③狼から羊へ変身　の3つのコーナーを学生たちが順番に回って、考え、反省し、分かち合う

院内で十字架の道行

7人の子どもが洗礼を受けました

時間をもちました。特に、高校6年生はカリタス学園最後の年にムユリナにあるサレジオ会の黙想の家を一日お借りして練成会を行い、講話、ミサ、ゆるしの秘跡をサレジオ会員に協力していただきました。

カリタス学園に通学している高校生で兄のマキシミリアーノ君、小学生で妹のソフィアさん、母のヴェロニカさん一家は、母子家庭のうえヴェロニカさんは目が不自由で、障がい者保障金だけでは生活が苦しいので、月謝免除と物資の支援を行っています。現在はスペインで出稼ぎしている知人宅の留守番と家の管理をして生計を立てているそうです。

オガール・ファティマ乳児院の隣は、サレジオ会の養護施設オガール･ドン･ボスコとマノ･アミーガ（Mano Amiga＝友だちの手）で、いつもお世話になっています。そして、ドン・ボスコの記念日1月31日とドン・ボスコの誕生日8月16日には、サレジオ会主催でカトリックの養護施設の子どもたちの集いが開催され、オガール・ファティマ乳児院の子どもたちも末っ子として参加しています。

オガール・ファティマ乳児院の4～5歳の13人の子どもたちは、目と鼻の先にあるサレジオ会の幼稚園に登園していますが、問題を抱える子どもたちの教育ため、忍耐強く、愛情をもって協力してくださっています。

2024年5月13日に、サレジオ会のオクタヴィオ神父の司式で、オガール・ファティマ乳児院の7人の子どもたちが洗礼の恵みを受けました。洗礼の代母は乳児院の職員たちで、サレジオ会の神学生ブラザー・カルロスが、代母たちのカテケージスに協力してくれました。

今、宣教の記憶が風化し、課題も多い現実の中、あの恵みと挑戦の日々に「私たちの心は燃えていたではないか」（ルカ24：13）と、復活した主に出会った弟子たちのように高鳴る心と喜びを思い起こしながら、私たちに託された神さまの夢の実現のために、これからも主キリストとともに歩み、扶助者聖マリアに信頼し、カリタスを証し続けていきたいと願っています。

今回のドン・ボスコ基金からの支援は、カリタス学園の生徒たちの養成と支援の必要な家庭のため、オガール・ファティマ乳児院の子どもたちの養育のために使用させていただきます。本当にありがとうございます。ドン・ボスコ基金をとおして、ご支援くださる皆さまのうえに、神さまの豊かな祝福がありますように、心からの感謝を込めてお祈り申し上げます。

ベトナム
北ベトナム管区より 2024～2025年度 奨学金支援のお願い

サレジオ会　北ベトナム管区

マーティン・マイ・クイエット・タン神父

日本管区DBK事務局と支援者の皆さま

私はサレジオ会の司祭、マーティン・マイ・クイエット・タンです。北ベトナム管区で青少年司牧の責任者をしています。

2023～2024年度の奨学金基金プロジェクトでは、私たちの貧しい学生を助けるために、皆さまから1,380ドルのご支援をいただきました。皆さまの優しさと支援に大きな感謝をお伝えしたいと思います。

◇2023～2024年度 奨学金基金の収支報告

・収入224,300,000 VND
・支出222,160,000 VND
　…奨学金11名・ユース活動費
・残高2,140,000 VND
（1VND＝¥0.0061）

北ベトナム管区の若者と貧困層のために有意義な支援をいただき、誠にありがとうございます。

次の学年の準備として、2024～2025年度の奨学金基金プロジェクトをお知らせします。

1. プロジェクトの目標

- 善良なキリスト教徒と誠実な市民の育成。
- ドン･ボスコの精神に基づいた活動プログラムの開発。
- 非常に困難な状況にある子どもたちに学校に通い、知識を向上させる機会を与え、彼らに大きな希望と明るい未来与えることを支援する。

2. 現状

- 若者は貧しく、学校を中退しています。

3. 支援対象

- 小学生から大学生までの年齢層の生徒。
- 困難な状況にある生徒。

4. 予算計画

- 2024年9月～2025年9月、175人の学生に1年間の奨学金2,000,000 VNDを支給。
- 総計：350,000,000 VND

管区長と若者を代表して、心からの感謝を申し上げます。キリスト者、ドン・ボスコ、聖ヨセフの助けである、私たちの愛する聖母マリアの執り成しをとおして、皆さまが常に神の恵みに満たされることを祈ります。

ブラジル
サン・マテウス校より 奨学生援助のお願い

イエスのカリタス修道女会ブラジル準管区
シスター マリア浦川

カリタス学園サン・マテウス校の奨学生のために援助をいただけることを知らせていただきました。心から感謝いたします。寄付は、奨学金の補助に使用されます。

●奨学金の支給方針

奨学金を申し込む入学生に対して、補助金を支給する方針があります。

原則として、当校の生徒、小学校1～9年生までを対象としています。

高等生はテストを受けて良い成績を得た学生に機会を与えています。さらに、品行と成績を評価し、この点数を加味して奨学金の割合を決定します。

奨学金を求める生徒には、家族の収入を証明する書類と、彼らがどのようにやりくりし何にお金を使っているかを知るために支出の明細の提出を求めます。

そして面談を行い、要望とその理由を説明してもらいます。

面談の様子

●家庭への同伴

奨学金が支給される家庭に同伴してサポートしています。面談や家庭訪問をとおして話を聞き、その家庭の実情をよく知るように努めています。そしてニーズに対して、私たちにできる支援を実践しています。

家族はこれらの傾聴をとおして安心感をもっている

家庭訪問の様子

ようです。

　また、家庭訪問の際には、援助への依存を生み出さないよう、自分たちで解決策を見つけるようにアドバイスをします。そして、補助金を受けるのは1年間であることを伝えます。もし、1年で家庭の経済問題が解決していなければ、再度申請して手続きをしなければなりません。この場合には、年を重ねるごとに補助金の割合を減らしていきます。

　奨学金申請の主な理由は以下のとおりです。

・個人経営でビジネスを始め多額の投資をしたが、パンデミックにより期待した結果を得られなかった。
・重い病気で働けなくなり、治療に多額の費用がかかる。
・配偶者の死亡、または別居で配偶者を失い、月謝が払えなくなった。
・失業。
・特別な支援が必要な生徒（自閉症、注意欠陥多動性障害、その他の病気）の治療費がかかる。（※これは母親が子どもの世話のために働けないケースで、ここに当てはまる生徒は多い。）

　改めて、援助をいただけることに心から感謝いたします。皆さまのためにお祈りさせていただきます。

日本・福島
FMA国際ボランティア VIDES 「浪江町プロジェクト」開始にあたって

サレジアン・シスターズ
VIDES理事　シスター牧山史子

　いつもDB基金をとおしてVIDESのボランティア活動を支えてくださっている皆さま、ありがとうございます。今年度は、スタートしたばかりの「福島県浪江町プロジェクト」へのご理解をいただき支援してくださることに心から感謝申し上げます。

　VIDESは、震災前から浪江での田植え体験、自然や町の人びととの触れ合いによる教育の場を子どもたちに提供し、参加者も同行者も目に見えること・見えないことのさまざまな恩恵を受けてきました。しかし2011年、その田んぼも家もすべて津波で流されてしまいました。被災から10年がたったころ、VIDES会員たちが浪江町を再訪したときは、放射線の影響で帰宅困難区域の指定がいまだ解除されず、ゴーストタウンのようでした。放射線の影響がなかった周囲の被災地は復興が進んでいるところもあるというのに……。

　現在、被災地ではそれぞれに復興の歩みをしています。放射線の影響を受けたところ――地震・津波・放射線の「三重苦」を背負っている――と影響を受けなかったところ、また、同じ「三重苦」を背負った区域でも電力会社に誘致を許可した町としなかった町、そして、その復興のコンセプトの違い――誰が（国、町、団体、個人など）、何を支援しているのか、なぜ支援しているのか――等々が現在の町・市の在り方につながっている気がします。

　被災から10年以上たった今、私たちサレジアン・シスターズのボランティア団体VIDESが浪江町に行くことを決定した第一の理由は、そこに若者がいるからです。その地の人びとと共に生きることを決意して移住した若者たち、都会での息苦しさ・生き苦しさから逃れてくる若者たち、また、引きこもりや不登校などの理由から“居場所”を求めて悩む子どもを抱えた若い家族が集まってきています。さまざまな若者の未来を広げる出会いと場所が、今、ここにあるのです。現在は地域の諸団体や教育委員会とも連携し、主に「子育て支援活動」をしています。今後は、ハッピーハウスのような“子どもの居場所”作りを計画中です。

　浪江町は、とてもWELCOMEの精神が根づいている町です。その謎は、自称「帰還一人目」だという長老の言葉で解けました。この町は「天明・天保の大飢饉」で町民皆が死に絶え、その後の移住者によって再興されたのだと。今でも来る者の違いを受け入れつつ文化を創っていく土壌があるのかもしれません。

　ある写真家の青年が私たちと共に浪江を訪問して作成した動画がありますので、ご覧いただけると幸いです。そして、ぜひ浪江に足を運んで“空気”を感じてください。

（3分動画）
https://youtu.be/xq2jvD3y6CM

日本・東京
多文化共生センター東京
継続支援への感謝

多文化共生センター東京
代表理事　杤木典子

いつも多文化共生センター東京をご支援いただき、ありがとうございます。

この度は多文化共生センター東京の2024年度のご寄付をご持参いただき、誠にありがとうございました。継続して温かいご支援をいただき感謝申し上げます。頂戴しましたご寄付は、団体運営と子どもたちのために大切に使用させていただきます。

4月9日から荒川校で、また16日から杉並校で新年度の「たぶんかフリースクール」が始まっています。

両校合わせて9か国にルーツをもつ27名の生徒が勉強しています。

事務局・講師一同、子どもたちのサポートをして参ります。引き続き、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ドン・ボスコ基金
2023年度収支報告書

（2023年4月1日〜2024年3月31日）

（単位：円）

収入の部			支出の部		
寄付希望先	金額	備考	寄付先	金額	備考
ハッピーハウス	27,000		浪江プロジェクト（FMA）	200,000	※2
Kiitos	30,000		Kiitos	100,000	
日本国内	112,870		浜松教会学習支援	200,000	
			ドン・ボスコ オラトリオ（SDB）	200,000	
			東京サレジオ学園（SDB）	200,000	
			多文化共生 センター	200,000	
ボリビア(倉橋神父)	287,451		ボリビア（SDB）	600,000	※3
ベトナム	48,196		ベトナム（SDB）	500,000	※3
エチオピア	1,000		エチオピア（SDB）	200,000	※3
ウクライナ	459,518		ウクライナ（SDB）	3,000,000	※3
トルコ・シリア地震	186,888		トルコ・シリア地震	1,000,000	※3
東ティモール	2,000				
スリランカ	45,645	※1	スリランカ（SDB）	500,000	※3
モンゴル	161,834		モンゴル（SDB）	500,000	※3
			モンゴル（FMA）	800,000	※4
			南スーダン（SDB）	500,000	
南スーダン	135,619		南スーダン（SCG）	500,000	※5
ペルー	2,000		ペルー・ボリビア（SCG）	500,000	※5
ブラジル	17,445		ブラジル（SCG）	500,000	※5
ミャンマー	44,797		DBVG 現地資材補助	300,000	
任意	9,439,564				
寄付金　小計	11,001,827		寄付送金　小計	10,500,000	
＜寄付外収入＞			＜支援外支出＞		
銀行口座利息	5		寄付金送金手数料	26,825	
			DBKだより発行	62,390	
			通信費	98,225	
			事務関係経費	10,550	
			諸経費　小計	197,990	
前年度繰越金	2,284,563		次年度繰越金	2,588,405	
収入の部　合計	13,286,395		支出の部　合計	13,286,395	

*収入の部は2023年4月1日から2024年3月31日までに受け入れた寄付金の金額の総計となっています。

**支出の部は2024年3月31日までの受入資金を分配して送金したものです。

略号の説明　SDB：サレジオ会、FMA：サレジアン・シスターズ、SCG：イエスのカリタス会　（　）のものは関係修道会

※1　東ティモールの寄付金は金額矮小のため次年度に送金することにいたします。

※2　ハッピーハウスへの寄付は母体のVIDES JAPANからの申し出で浪江プロジェクトに変更になりました。

※3　サレジオ会関係の国際送金はサレジオ会日本管区本部経由で送金いたしました。

※4　サレジアン・シスターズ関係・サレジオ会モンゴルの国際送金はサレジアン・シスターズ日本管区本部経由で送金いたしました。

※5　イエスのカリタス会関係の国際送金はイエスのカリタス会日本管区本部経由で送金いたしました。

印のない寄付先はドン・ボスコ基金口座から直接送金しております。

DBK［ドン・ボスコ基金］に

ご支援くださった皆様

2023年8月1日〜2024年5月31日の間に、DBK［ドン・ボスコ基金］に募金してくださった方々です。
匿名の方も含めまして、恩人の皆様からの寛大なご支援とお祈りに、心より感謝申し上げます。

【個人】〔敬称略〕

麻生 公子、安部 恭子、阿部 正子、阿部 泰久、甘利 理香、新井 顯保、有田 美智子、飯島 美智子、飯沼 武、五十嵐 廸雄、井口 瑞江、池尾 久美、池澤 郁子、石井 真紀子、石崎 真理子、石突 真理子、磯部 篤、市川 敏子、伊藤紀子、伊藤 正高、今塩 宏之、今村 信之、入江 千鶴子、岩田 卓三、上田つや子・原之園容子、内河 純子、内山千夏子、梅田 博子、遠藤 クララ、遠藤 昌子、大石 雅子、太田 正廣、岡田 久美子、小川 由子、小椋 久光、小山田 匡宏、加藤 恭平、加藤 愼次郎、加藤 典江、金見 恩美、亀谷 みき古、河口 路代、川尻 達也、岸本 典子、金城久枝、金原 洋、藏本 麻里、栗木 幸子、黒崎 雅浩、小島 明希、小林 徹也、権 五鉉、近藤 幸恵、坂本 秀子、佐々木 惠子、佐藤 朝子、佐藤 香代子、佐藤 貴美子、佐藤雅代、佐藤 操子、佐野 淑子、猿川 昭義、椎原 伊三男、島本 メリエ、清水 郁子、下里 亘、白水 泰子、杉山 信彦、鈴木 智巳、住本 惠子、曽根 美香、髙島 正人、髙瀬 由紀子、高田 光、髙野 仁、竹村 牧子、橘 りつ、塚本 慎一、月岡 紀子、辻村 寛行、テラド カツヒサ・マコ、友村 忠司、中尾 友和、中田 文雄、中西 敏子、中村 ツイ、西ヶ谷 裕子、西田 浩朗、西出 治彦、二村 文子、根立 信子、野口 幸子、花岡 皞、濱口 俊光、浜﨑 広光、日向 育子、平川 厚子、平田 久子、平野 良幸、広川 澄子、福地 直義、藤田 満智子、藤永 悦子、藤原 礼子、舟木 栄子、古木 裕行、堀口 順子、前田 志津子、前田 太、前田 玲子、松井 建子、松田 律子、松原 久美子、松本 達也、水谷 義晴・とし子、三永 典子、宮澤 正・香織、宮脇 和子、三好 明子、森田 善和、諸井 眞利、八木下 泰博、薬真寺 真理枝、柳川 智美、山本 厚子、山本 朋弥、山本 秀子、山家 信雄、横山 多津枝、吉川 敦 神父、吉田 邦利、吉田 紀子、与曽田 一雄・知子、和田 惠美子、和田 位、渡辺 逸雄

【団体】〔敬称略〕

あぐら会　足立光生、大分明星幼稚園、カトリック調布教会、カトリック調布教会聖歌隊、カトリック調布教会ミニバザー、カトリック浜松教会、カトリック東仙台教会海外協力の会、カトリック由比ガ浜教会婦人会、カリタス学園、カリタス学園同窓会、カルメル会修道院、コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会管区本部、桜の聖母学院幼稚園　園長　武藤浩之、サレジアン・シスターズ大分修道院、サレジアン・シスターズ管区本部、サレジアン・シスターズマンマ・マルゲリータ修道院、サレジアン・シスターズ目黒修道院、サレジアン国際学園世田谷中学高等学校、サレジアン国際学園目黒星美小学校、星美学園、星美学園幼稚園、調布星美学園、シトー会那須の聖母修道院、大阪聖マリア学園藤井寺カトリック幼稚園、ボスコ・ワールド代表　松田康子、目黒サレジオ幼稚園

【匿名の方】　62件

DBK［ドン・ボスコ基金］へのご支援とお祈りを、
今後ともよろしくお願いいたします。

事務局からのお知らせ

- DBK［ドン・ボスコ基金］事務局へのご連絡は、原則としてメールにてお願い致します（スタッフは常駐しておりません）。メールアドレスは dbkinfo@salesians.jp です。
- ゆうちょ銀行の払込用紙以外からご寄付くださる場合は、メールにて「氏名」「住所」「寄付希望先」「寄付者氏名の公表または匿名希望」「その他」をご連絡いただけますと幸いです。ご連絡がない場合は「任意（事務局一任）」「寄付者リストに記載」で受付させていただきます。ご連絡いただいたデータは御礼状および「DBKだより」の発送に使用させていただきます。
- 昨今の郵便事情から、以前よりも郵便物の到着に日数がかかりますことをご了承ください。

DBKだより
第29号
2024年10月1日

発行人　濱崎 敦
発行所　ドン・ボスコ基金

〒160-0011　東京都新宿区若葉1-22-12
サレジオ会日本管区本部内
Tel:03-3353-8355　Fax:03-3353-7190
Email: dbkinfo@salesians.jp
https://salesio.jp/about/dbk

DBK ドン・ボスコ基金

DBK［ドン・ボスコ基金］は、特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する、サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。

DBKウェブサイト
「DBKだより」バックナンバーもご覧いただけます

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替口座名：ドン・ボスコ基金
口座番号：00190-5-292253

※寄付者氏名の非公表をご希望の方は、払込用紙に「匿名希望」（☑チェックマーク）をご記入ください。

●他の金融機関からお振込みの場合
金融機関：ゆうちょ銀行　店名：〇一九（ゼロイチキユウ）
預金種類：当座預金　口座番号：0292253

恩人の皆様と支援先の方々のためにミサをささげるDBKスタッフ